

あ と が き

岡崎の民俗文化財を、もう一度自分の眼で確認しようと思い、歩き始めて6年程経ちます。

歩く先々で、民俗文化財の変容や継続の多様さに驚かされましたが、それぞれが抱えている困難な状況にも遭遇しました。早急に「今」を記録して広く皆さんと共有し、民俗文化財を地域の財産として価値を認め合う行動が必要だと感じていました。

むかし館講座「岡崎風土記」を開催したのは、ちょうどこのように考えていた時期でした。参加者の皆さんにひとまずは情報提供できたこと、またそれらを記録冊子としてまとめることができたのは、誠に幸いでした。熱心に受講していただいた皆さん、そして情報提供して下さった多くの方々に、厚く御礼申し上げます。

民俗文化財の調査は、地域社会と結びついた具体的な民俗資料（日々の暮らしの中で形成された習俗）の「今」を記録し、それぞれの資料の多様な姿の中から、民俗変容の過程、民俗と地域社会との関わり、事象の意味などを追究することを狙っています。そのために、「あるく・みる・きく・かんがえる」を調査の基本方針とし、岡崎の今を巡っています。

「あるく・みる・きく」とは、地域の方々の協力を仰ぎ、地域の「今」をしつかりと記録すること。調査としては、通常ここまでですが、さらに「かんがえる」と入れることで、記録を地域にフィードバックして問題を発見し、解決策を地域の方々と一緒に考え、民俗文化財のよりよい姿を共有したいと願っています。

今後ともむかし館講座を通じて、民俗文化財の情報発信を試みていく考えです。多くの情報提供をお願いします。

野本 欽也 記